

NPO 法人 カラカネイトトンボを守る会 事業概要

本会は篠路福移湿原、トンネウス沼、石狩川下流自然再生地区などで自然保護・保全活動を行っている。これら 3 カ所は近郊に位置するが、それぞれ異なる性質の水辺である。どの自然も貴重であり、現在残されている自然を守らなければならない。定期的な調査を毎年行うことで、水質・水位の変化やトンボ相の変動がわかり、水辺の自然環境の変化も把握することができると考えた。さらに、調査によって環境悪化の原因を突き止め、それを改善することで湿原・湿地の保全につながる。また、これらの調査データから簡単な自然環境の指標を作成することで、より幅広い環境の保全に役立てると考えた。

自然再生地区・トンネウス沼での調査については、計画通り調査を行うことができた。成虫調査は 5 月から 9 月に月 3 回、合計 15 回調査した。調査時間は 9 時~15 時で、各地点で 1 時間、見つけたトンボを捕虫網で採集した。採集したトンボは全て同定し、標本にして種数と個体数を記録した。得られたデータは過去のデータと比較し、トンボ相の変動について考察できた。また、採集したトンボのデータから水辺の環境を測る指標を作成できた。調査は札幌旭丘高校が主体的に行った。また、札幌光星高校や札幌市立屯田北中学校の生徒が今年度から調査に参加するなど、この活動が広く認知されるようになった。調査に参加した高校生は、第 51 回全道理科研究発表大会(高文連)などの大会に出場し、全国大会への出場が決まった。

篠路福移湿原の調査については、月に 3 回以上調査に行き、より正確なデータを得ることができた。調査は 5 月~10 月にかけて湿原内の地下水位・水質調査を行った。水位は 18 カ所、水質は 5 カ所を調査した。水質調査は COD、NH₄⁺、NO₃⁻をパックテスト、pH を pH メーターで計測を行った。湿原域と埋立域との比較や昨年度との比較が可能となった。

また、啓蒙活動では、本会が主催するパネル展や発表会で調査に参加した高校生が発表を行った。大勢の人に研究の成果を知ってもらうことができ、また来年度に向けてのアドバイスをいただいた。



トンネウス沼での調査風景



篠路福移湿原での調査風景



発表会の様子